

## 巻 頭 言



名古屋市長 河村 たかし

# 歴史と多様性を「名古屋の魅力」に ～世界中から人々が集まるデスティネーションへ～

名古屋は、古くから交通の要衝として、西と東の文化が交わる豊かで恵まれたまちです。熱田神宮や織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑、尾張徳川家に代表される歴史や文化は、名古屋の魅力や活力の礎となっています。

名古屋の発展は、1610年の名古屋城築城開始と、その後、清洲から遷府した清洲越しから始まります。その後名古屋には、木曾ヒノキを始めとする良質な原材料が供給されるとともに、数多くの職人が集まって始まったモノづくり文化が開き、現在も名古屋は日本の未来を導く産業都市として、成長を続けています。

地の利とモノづくりの伝統を活かし、発展をしてきた名古屋ではありますが、国際的な都市間競争を勝ち抜き、日本をリードしていく国際都市として、さらに輝いていきたいと考えています。

そのために、名古屋市は今年度から新たに観光文化交流局を設置し、都市魅力の向上に、より一層、力を入れて取り組んでいます。

「名古屋のデスティネーション（目的地）は？」と聞かれ、返答に困るような現状を打破し、「世界最大の乗換駅」と揶揄されることのないよう、世界中からたくさんの人々に訪れてもらえる魅力ある都市へ今こそ変貌を遂げなければなりません。

そのシンボルとなるのが、名古屋城です。名古屋城本丸御殿は、京都・二条城二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の最高傑作といわれています。名古屋市はその歴史的意義を踏まえ、先人が残した詳細な実測図をもとに、焼失前と同等の文化的価値を有し世界的な市民の財産となるように本丸御殿の復元を進めています。今年6月1日には第2期公開を開始し、格式高く重厚かつ華やかな意匠が人気を集めています。2018年の全体公開が待望されています。今後は本丸御殿のみならず、名古屋城全体の整備を進め、その実現のあかつきには、名古屋のシンボルとしてだけでなく日本の、世界のシンボルとして、世界中からたくさんの人々が集まるデスティネーションになるものと考えています。

さて、国際的な人流は、インバウンドに限られたものではありません。全国的には人口減少が続いていますが、名古屋市では、今年5月に人口が230万人を初めて突破しました。2015年の名古屋市の人口増の内、実に4分の1を外国人市民が占めていました。2016年5月末には、名古屋に住み、名古屋で活躍する外国人市民が初めて7万人の大台を超えました。

外国人市民の増加と定住化の傾向は今後も続く予想されます。名古屋市は、新たな多文化共生の指針として、第2次名古屋市多文化共生推進プランを策定中です。多様性を「名古屋の魅力」と市民の誰もが感じられるまちを目指して施策を推進し、世界中から人々が集まる名古屋を目指してまいります。